序、洪文衡の續增館則序及び呂維祺の增定館則序は、各其の編輯したる館則に附せられたるものにして、之に依りて、一は嘉靖癸卯（二十二年）、二は萬曆壬子（四十年）、三は崇禎三年に編述せられたるものなるを知るべく、又初め郭鋆は單に之を館則と名づけたりしが、其の整備と增補とを經るに從ひて、漸次續增館則、增定館則と稱するに至りしことを知り得べし。されば康熙十二年に於ける袁懋德の新增は、初めの館則の上に加へられたる第三次の增補に當れり。然れども本書は袁氏の增定せる儘のものには非ず。其の卷首劈頭に於て、康熙戊辰（二十七年）秋七月、翰林院提督四譯館太常寺少卿許三禮の撰せる題詞を揭げ、又其の末に、同年孟秋穀旦霍維翰の跋を載せ、中に

館則一書。典章具在。但歲月滋久。魚豕漸淆。許大人蒞署之日。稽閱舊籍。見其篇章遺迭。慮其久而漫漶。或致文獻無徵。特命補其殘闕。而增輯之。

と謂ひ、又

翰備員末屬。承命董役。工竣而紀其略于簡末。

と謂へり。是に由りて考ふれば、此の書は許三禮の命を承け、霍維翰が董役して、更に新增の工を竣れるものに外ならず。實に第四次の增補に係はれり。

本書は原と增定館則に附したる呂維祺の序を、卷之十七文史序類中に移して體裁を整へ、別に卷首尾の序跋を加へたる以外、悉べて增定館則の本文を其の儘に存置し、新に加へたる袁懋德の增輯に就きては、其の首行若しくは版心に新增館則と題して之を區別したること、卷首序跋の後と增定館則目錄の前との間に挿入せる二篇、卷之六、